メンズエステで施術中、フルボッキして何度も紙パンツからおちんちんが飛び出してしまい呆れられた話

メンズエステに行ったときの、ちょっと情けなくて、でも忘れられない話を書く。

いつもと違う新しいエステを開拓しようと思い、隣町のお店に行ってきた。受付の女性に案内され、個室に通される。ベッドの上には、薄い紙パンツが用意されていた。

「こちらに着替えて、仰向けになってお待ちくださいね」

言われるままに服を脱ぎ、紙パンツをはく。薄い紙のような素材で、股間を軽く覆うだけのものだ。仰向けに寝ると、天井の照明がぼんやりと目に入る。緊張と期待が混じった気持ちで待っていると、ノックの音がして、ドアが開いた。

入ってきたのは、巨乳のお姉さんだった。白い制服の胸元が、豊かな膨らみで張っている。笑顔で近づいてきて、「はじめまして、今日担当の朝倉です。よろしくお願いします」と頭を下げた。声は柔らかく、でも視線がチラリと自分の下半身に向いた気がした。